

報告書ページ	施策No.	具体的な施策	意見・質問等	担当課回答	担当課
19	5	男女共同参画に関する講座やセミナーの実施	<p>いずれも評価が「c: 着手したが不十分」となっているが、その評価の根拠をみると、「新型コロナウイルス感染症拡大で当初の計画通り実施できなかった」ということになっているようである。</p> <p>しかし、実施状況を見ると、代わりに動画配信が行われていたり、目標値に照らして遜色のない実績値を残していたりするなど、この状況の中でできるだけのことは行われているとの印象を受けた。</p> <p>個人的には、「b: おおむね計画どおり」という評価でもよいのではないかと感じる。</p>	<p>コロナ禍で予定していた事業を通常どおり実施できないこともあったが、工夫を用いながら実績が維持できたものもあった。その点を評価いただき、ありがたい。</p>	男女共同参画センター
31	10-②	国際的な視野の醸成			文化国際課
33	10-③				生涯学習課
61	22	男女平等の視点に立った情報教育の推進			青少年課
105	38	再就職支援	<p>感染状況に合わせ、セミナーの規模縮小や会場の感染対策などを工夫して実施することができた。引き続き、開催時の状況で出来る限りの支援を実施していきたい。</p>	産業政策課	
107	39	起業家支援			<p>感染対策を徹底させながら、可能な範囲でセミナーを開催し、起業に必要な知識を提供することができた。今後も評価をいただいたとおりの水準で事業を推進していきたい。</p>
41	14-①	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの取組	<p>この施策については、目標値に対してほぼ半分程度の実績値であるが、「b: おおむね計画どおり」という評価となっている。</p>	<p>目標値については国の目標値と同じに設定した。ご指摘のとおり、実績値と比べ乖離があるが、国の目標値は職域等の人間ドックなどの受診率も含めたものになっている。</p> <p>本市では市の検診における実績値であり、職域等における受診率は把握できないが、国の平均的な受診率と考えると、市の検診の受診率は県内や他の中核市などと比べても高い水準を維持しており、「おおむね計画どおり」の評価としている。</p>	健康増進課
91	32-③	防災・災害対応における男女参画	<p>実績値自体をみると、例年と比べてほぼ同水準であることから「おおむね計画どおり」という評価なのかなと思うが、そうだとすると、「目標値が非現実的なものだった」ということなのか、「目標値は妥当な水準だが実態が著しく問題を抱えた状態だ」ということなのかなど、目標値と実績値との乖離の理由が気になる。</p> <p>目標値と実績値、そして評価との関連について、どのように捉えておられるのかについて補足いただきたい。</p>	<p>近年、本市消防団では女性団員の多数を占める学生団員の入退団が活発であり、年度途中に入団したものの卒業などの理由により、年度末に退団する事例が多くなっている。本事業の実績値は各年度始めの人数を報告しているため、目標値と実績値に乖離が発生している。</p> <p>令和3年度にあつては女性団員の最大在籍人数が22名と前年度実績値より向上したこと及び近年、男女問わず団員確保が難しい中で、一時的ではあるが、目標値の7割近くまで達成できたので「おおむね計画どおり」とした。</p>	消防局 総務課
137	50	介護についての相談体制の充実		<p>コロナウイルス感染症により地域ケア会議そのものの開催数は目標値に対して落ち込んでいるが、医療と介護の連携会議など地域ケア会議以外の形での会議開催を行い、各地域におけるネットワーク構築は進んでいるため、総合的に評価し、「概ね計画どおり」とした。</p>	長寿包括ケア課
41	14-①	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの取組	<p>今年度より子宮頸がん検診と乳がん検診が無料から500円となり、さらに隔年となった。厚生労働省のHPでも隔年となっており、財政を鑑みての施策なのかもしれないが、無料で毎年受診できることが前橋市に住む「幸福度」に繋がっていると思う。</p> <p>大学や広報誌で啓発するよりも「無料」に戻すことが受診率を上げるなによりの方策のような気がする。隔年の間にがんの発見が遅れることも考えられる。</p> <p>&lt;質問&gt;有料になったことで、より一層の啓発を考えているか。</p> <p>&lt;提案&gt;今年度の受診率のデータや、検診変更にもなうがん発見の遅れ等のデータ（今年度は難しいと思うが）を発表し、がん検診について市民で考える機会を作ってほしい。</p>	<p>今年度も検診未受診者への受診再勧奨の実施、大学・専門学校との連携による啓発、広報誌やホームページ等による啓発、受診しやすい健診体制の整備を行う。それに加え、今年度は、個別の受診再勧奨のハガキ送付を再開し、また新たにデジタルサインページでの受診啓発、土・日にショッピングモールでの群馬県主催による市町村合同健診等も考えている。</p>	健康増進課
	14-②		<p>ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの個別勧奨が再開され、高校1年生までに接種できなかった人に接種の通知が届いている。</p> <p>過去に接種できなかった人はすでに成人した人もおり、保護者から通知が届いた等の情報が届きにくいかもしれない。この年代に対する啓発等は考えているか。</p>	<p>積極的勧奨を差し控えていた期間に定期接種の対象であった方（平成9年4月2日～平成18年4月1日生まれ）については、キャッチアップ接種として接種を実施しており、対象の方には令和4年6月に本人宛で個別に案内通知を送付している。また、広報まえばし・ホームページで周知を行っている。</p>	保健予防課
55	19	デートDV対策 デートDVに対する情報提供・働きかけを行います。	<p>「c: 着手したが不十分」との評価の理由が「新型コロナウイルス感染症の影響により、中学校での開催希望がなく」とされているが、「新型コロナウイルス感染症の拡大で、生徒たちへの感染リスクを避けるために、校外の人々になるべく学校に来てもらわないようにするため、講座の開催依頼がなかった」ということか。</p> <p>その場合は、オンラインでの開催やビデオ等を活用した実施、あるいは資料の配布など、次善の手段が考えられるかと思う。</p> <p>コロナを理由に取り組みが止まってしまうように、総合教育プラザや学校への働きかけと連携が進められることを期待する。</p>	<p>年度はじめに市内中学校に対してデートDV講座開催について案内を行い、学校からの依頼を受けて実施している。R3年度は年度初めの時期に警戒レベルが上がった時期でもあり、学校も感染リスクを避ける考えから、開催依頼がなかったものと思われる。また、これまでは朝の集会や生徒総会等の全校生徒を集めた場での実施が多く、コロナの影響によりそうした機会も減少した。一方で、校内テレビ放送を使用して実施した学校もあるので、ご指摘のように、今後は動画配信やDVDの活用など、学校等へ働きかけながら取組を継続できる方法を検討する。</p>	男女共同参画センター

報告書ページ	施策No.	具体的な施策	意見・質問等	担当課回答	担当課
55	19	デートDV対策 デートDVに対する情報提供・働きかけを行います。	「着手したが不十分」の理由として「中学校での開催希望がなく、開催回数が目標に達しなかった」ことを挙げておられるのと、事業の概要に中学生を対象としたデートDVミニ講座の開催となっていて、高校生は対象として考えていないのか。市立高校、市立工科大学での開催は検討したか。また、前橋市内の高校での開催はどうか。 デートDVは中学生とともに高校生への啓発が必要かと思う。	県内の高校・大学を対象としたデートDV講座は、群馬県生活こども課が各学校に毎年度希望調査を行って実施し、昨年度は10校実施したとのことである。 市では中学校を主に対象としているが、2年続けて共愛学園前橋国際大学でも実施している。市立前橋高校や工科大学については市の管轄でもあることから、今後県での実施予定がない年度においては働きかけを行い、デートDVについて学ぶ機会を提供したいと考える。	男女共同参画センター
63	23	審議会等への女性の登用促進	P. 64の総合評価の理由の記載について、「理由」ではなく「結果報告」と考えられる。理由を聞かせてほしい。	女性委員の積極的な登用について周知したが、委員の選出方法を充て職や関連企業・団体に推薦依頼としている場合もあり、充て職の委員が男性であることや関連企業・団体から女性委員の推薦が受けられないことなどから、女性委員の比率向上には至らなかった。(女性委員のいない審議会等の数：22/103)	行政管理課
73	27	地域における制度・慣行の見直し	「地域における男女平等を阻む慣習・慣行」に関して、意識されることのない、あるいは取るに足らないと思われるような問題にも目を向け、地道に改善をはかっていく努力が大切であると考え。 例えばPTAや自治会の活動では、実際は女性が参加しているにも関わらず、名簿上は夫などの男性名になっていることが以前はよくあった。最近では、自身の名前での登録を求める女性が多くなったり、書式自体が変更されたりするようになってきた。 一方、自治会長などの役職については、事前の調整に基づいて選出される形が普通であり、男性の候補以外は最初から想定されていないことがほとんどである。これには「自治会の役員などになったら時間をとられて大変」という事実をふまえた常識が浸透していて、男女を問わずなり手が少ないという背景がある。地域や家庭の現状をふまえ、自治会活動のあり方そのものを見直す必要があると思う。 自治会では、飲み会参加の問題もある。コロナ以前は、夏祭りや運動会など行事やイベントに伴う反省会を含め、年に何度も飲み会が開催されていた。もちろん強制参加ではないが、女性役員などの中には、負担に感じる人も多かったようだ。飲み会で親睦をはかる習慣が身に付いた世代とのギャップは大きいと言える。	地域における男女平等を阻む慣習や慣行の意識を変えていくため、粘り強く男女共同参画に関する啓発活動に取り組んでいく。  コロナ禍による自治会活動の中止・縮小は、今までの慣習・慣行や今後の活動のあり方を考えるよい機会であるのとらえている。 今後も機会を捉えて啓発し、女性や若年層の参加を促していきたいと考えている。	男女共同参画センター  生活課
111	41	農村女性活動の活性化支援	R3年度の目標値が「6回」になっていて、実績値が3回である。総合評価が「概ね計画どおり」となっている。H26年からR3年までの実績値が平均が約3回であることを考えると、R3年度の目標値の妥当性、「概ね計画どおり」という評価の根拠がよくわからないので教えていただきたい。	農業者からの申請件数に合わせて、年3回程度会議を開催しており、女性委員の積極的な意見交換が協議結果に十分反映されていることから、「概ね計画どおり」とした。	農政課
125	47-②	子育て支援の充実及び男性の利用の促進	③については、実績値が「13組395人」となっているが、これは「13回395人」ということか。  最近の歯科医療では、予防歯科が重要視されている。歯科衛生士による講話は大事なことだが、それにとどまらず実際の検診とケアの実施が望ましいと考える。 学校の健康診断では歯科検診も行われているが、子どもの場合は、セルフケアが十分にできないため年に1回では少なすぎると言える。 大人の予防歯科(有料)の頻度は人によって3か月～半年に1回とされているので、子どもには半年に1回程度の検査とケア(歯磨き指導など)を無料で提供することを期待したい。 また、歯科検診の際に、子どもへの虐待やネグレクトの兆候が発見されることは広く知られている。そうした観点からも、子どもへの予防歯科導入は非常に有意義な施策ではないかと考える。	13回に訂正する。 (男女共同参画センター)  健康教育や乳幼児健診等における歯科衛生士の指導の中で、乳幼児期からかかりつけ歯科医をもち、定期的に受診するよう勧めている。今後も継続して取り組んでいく。	子育て支援課  子育て支援課
145	53-②	男性の育児参加のための休暇の取得促進	P. 146の総合評価の理由の記載について、 ①取得するのが困難なケースとはどういうケースか。 ②「内容」から考えると、そのようなケースについては何らかの対応も考えられると思う。今後、どのように対処するのか。 ③「取得を必要としないと判断した」とあるが、「必要としないと判断」とはどのような理由からか。性別にかかわらず子育てをする社会を作ろうとする行政としてのこの「判断」を詳しく知りたい。 ④男性の育児のための休暇の取得を「推進」していく立場の行政が、年次有給休暇を育児の休暇とする形をとることをどのようにお考えでしょうか。	①担当業務について、休暇取得の調整がつかないケースがあると聞いている。 ②代替職員の配置、係内での業務の再配分を行う。 ③妻と子が遠方に里帰りをしているため傍にいない、近くに実家があるため自分以外の手がある等職員自身が取得をしないと判断したケースがある。 ④国においても、育児に関する休暇1か月以上取得目標の中で、育児のために取得した年次有給休暇も含めて算定していることから、付与されている出産・育児のための特別休暇を取得した上で、年次有給休暇の取得を必要とする場合もあり得る。今後も育児休業の更なる取得促進に向けて取り組みたい。	職員課
151	56	子育て・親子支援講座参加への促進	実績値が目標値を大きく上回っている。すでに平成30年度から実績値が大幅に目標値を上回っているので、目標がやや低すぎたのかもしれないが、これは大きな成果だと思う。評価の項目はこのプランに関わるものだけではなく、簡単に変更できないかもしれないが、「a:計画どおり」のさらに上に、「s:計画以上に進展した」などの評価項目があってもいいかもしれない。	いただいたご意見を参考とし、評価段階については今後検討させていただく。(男女共同参画センター)	生涯学習課

報告書 ページ	施策No.	具体的な施策	意見・質問等	担当課回答	担当課
		全般的	<p>評価理由の欄に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「着手したが不十分」になったものについては新型コロナウイルスの感染状況に応じて事業の取り組みを実施、又はコロナ禍でも実施可能な事業にする等事業内容の見直しに繋げていけば良いのではないか。</p>		
63 71	23 26	審議会等への女性の登用促進 地域リーダーへの女性の登用	<p>「審議会等への女性の登用推進」や「地域リーダーへの女性の登用」は、比較的コロナ禍の影響を受けていないもので「着手したが不十分」の評価になっているため、特に改善が必要であると考えます。</p> <p>また、女性の登用が進まない原因の一つとして、これまでの性別役割分業の名残りなのか、そもそも女性がリーダーシップを持って取り組む方が少ない可能性が考えられる。リーダーシップを持って積極的に社会に関わることができる女性が増え、男女が共に支え合う社会の実現のためにも、現段階では特に育成が重要であると考えます。</p> <p>オンラインを活用した講義を教育機関等に行い、講義後のアンケートの実施が良いのではないだろうか。</p>	<p>コロナ禍においても事業内容を見直しながら、効果的に事業が実施できるよう取り組んでいく。</p> <p>また、女性があらゆる分野に積極的に参画できるよう、人材育成の面も意識しながら、啓発活動に取り組んでいきたい。</p> <p>なお、アンケートについては、対面及びオンラインでもほとんどの事業で実施しているため、今後の参考として活かしていきたい。</p>	男女共同参画センター